

「子ども農山漁村交流プロジェクト」

受入安全管理マニュアル

簡易版

有意義な教育旅行を提供するためには、
安全・安心の受地づくりが必須です。
このマニュアルは、受入地域の安全・安心対策の一助になることを願って作成いたしました。

危機管理と安全対策を受入地域全体で共有し、ご活用ください。



危険は、傾向を予測し、予防と対策で安全に！

北陸子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会

Tel:076-240-5085 Fax:076-240-5087

〒920-0362 石川県金沢市古府町1-217

予測される 危険 と具体的な 安全 対策例

場所	危険項目	危険性内容	安全対策
川 海	水深、川底・海底の状態、水流等	溺れる・流される事故、助ける際の2次事故、低体温症、行方不明	川は安全に配慮された管理場所(親水公園など)を使用する。海では過去の事故や離岸流の状況を把握し、監視人は最低4名以上、救命ボートを配置。溺れる事故を想定した救命訓練を指導者全員で受講しておく。
	ふじつぼ、貝殻、ビン、金属片等	海底、川底で足を切る	複数の指導者で事前に使用場所を水中メガネで確認し、当日も先に入り安全性を確かめ。子どもを入れる場合は靴やサンダルをはかせること。
	毒をもつ水中生物に刺される	クラゲ、たこ、オニヒトデ、ハオコゼ、バリ、エイ、サメなど	危険生物の毒性や回遊特性を把握し、万一刺された場合を想定して医療機関へ応急処置の相談をしておく。遊泳させる区域に監視人を配置し、ロープなどを張り安全策を講じる。
	遊漁船、ボート、カッター、カヌー	転覆、ライフジャケットの装着ミス、波、急流での操作不能	天気予報の注意報発令中は中止する。定員を守る。指導者は1人で最大2名しか救助できないことを認識した上で体験プログラムを作成する。
	キャニオニング(沢登り)	滑落、転倒、岩での裂傷、骨折	責任者は指導員の力量、参加者の体力把握、ストレッチ体操など事前準備をする。ルートの実地踏査、事故を想定した救難訓練、医療機関への移送手段を事前確保しておく。
	ラフティング、急流下り	ダムの放水、崖崩落での転覆、投げ出されての打撲、水難事故	前日までの水量、当日の天気予報、風力・風向把握。 指導者は全員実地踏査してルート上の危険個所の把握を行う。
	急な増水で中州に取り残される	ダムの放水、ゲリラ豪雨などでの孤立、水難事故	基本的に中洲での体験は組まないこと。天気予報、気象図での危険予測。ダム事務所への放水の確認。
	日射病・熱射病	河原や海辺で炎天下にさらされての体験や就寝中の水分補足	日陰の確保、ゆとりあるスケジュール、30分に1回の水分補給。日射病は顔が赤くなる。対処は頭部を冷やしてスポーツドリンクを飲ませる。熱射病は青くなる。身体を温めて食塩水を飲ませる。
山 間 部	フィールド	危険動物との遭遇、天候異変での予期せぬ水害、崩落や落石によるコース歩行不能など	山間部での体験はトイレ対策が重要。実地踏査の際に地震・崩落を想定しての避難経路の想定や危険動物への対応、携帯電話電波状況などを把握して対策を講じておく。
	足場	崖の崩落、落石、滑落、橋の損壊、欄干からの転落	子どもの体力、視線、歩幅、運動靴を想定した現地踏査を重ね、無理をさせないプログラムにする。
	道に迷う	行方不明、滑落等による骨折・ねんざなどでルート復帰不能	短い距離でも案内看板を作り、固定させてルートをわかり易くしておく。指導者は非常笛や鏡、救助ロープ、救急医療セットを持参する。
施 設	ガラス窓	ガラス窓の破損、ガラス片の飛散	強風や老朽化、暴れていての事故などが想定されるので、ガラスがある施設での体験は子どもへの注意喚起が重要。
	倒 壊	非常扉の倒壊、運動具やゴールの倒壊、樹木や建造物の倒壊など	現地踏査をして、体験や通行の際に危険性がある建造物や樹木、機械類などを把握し、対策を講じておく。
道具・農機具・軽自動車	スクリュー、草刈り機、チェーンソー、ドリル等の道具	機械・器具に巻き込まれる	危険性や特性を熟知し、子どもたちに使わせる際はマンツーマンで指導する。安全性を重視したプログラムにする。絶対に自由に使わせないこと。
	耕耘機、コンバインの転倒事故	不測の事態が発生し、転倒や機器不具合の2次災害	機器の動力源を止めて説明し、安全柵やロープを張るなどの対策を講じて見学させる。コンバインのステップ乗車、農業機械への試乗などは禁止。(保険の対象外)
	ナイフ、ナタ、刃物、杵での事故	手指のケガ、打撲など	道具の特性・危険性や特性を熟知する。子どもたちに使わせる際はマンツーマンで指導する。絶対に自由に使わせないこと。
	バーベキュー、風呂焼き、花火、着火剤事故	やけど	着火剤は使用禁止。服装や靴の素材(フリースや化繊はすぐ燃える)への配慮が必要。火を使う場所では指導者がそばについていることが必須。
危 険 な 動 ・ 植 物	交通事故、転落事故	荷台部分への乗車、定員オーバー事故など	軽貨物の荷台への乗車も自家用車の定員オーバーによる事故も保険適用外。道路交通法を遵守すること。
	危険動物	クマ、イノシシ、毒ヘビ、クモ、ケムシ、ムカデ、蚊、蜂、あぶなどの命を脅かす事故	クマやイノシシ出没時の避難方法を勉強しておく。日赤の救急法講習会を受ける。毒ヘビ・昆虫類の見分け方、毒の抜き方、救急医療セットの使い方などを熟知しておく。
	危険植物(触ることの危険)	ウルシ、ハゼ、新緑の時期の樹液などで皮膚かぶれ	地元の山菜とり名人・達人を講師にして勉強会を開くことや、過去の事故情報を事前に熟知するようにしておく。
	危険植物(食べることの危険)	食用として危険なトリカブト、キノコ、山採、木の実などでの中毒	地元の達人を招いて勉強会を開き、事前に熟知するようにしておく。

！フィールド・屋内での安全管理の徹底について！

現場では、多くの体験(農作業や食事づくり、いなか暮らし等)を行うことから、事故が発生する確率(リスク)は高いと言わざるを得ません。しかし、リスクを気にしすぎると、ほんものの体験ができず、充実した教育旅行の組み立ては困難であるともいえます。危険を予測して対策をとり、事故を未然に防いで安全管理を心掛けていきましょう。

安全対策10ヶ条

1 使用する機械・器具の取り扱いは再度マスターしておく

体験作業の中で様々な機械や器具を使うことがあるが、事前に取り扱い方法や危険な点を充分に把握し、使用中は周囲の状況に配慮すること。



2 体験プログラムの危険予測・危険箇所の把握をして、予防と対策を

体験等で使用するフィールドを事前に確認し、荒天時や万一を予測して危険箇所を把握し、対応策や代替策を事前に検討する。救急医療セットの準備も怠りなく。(7ページの救急セットを参考に)体験受入地の 確認は受入の「1ヶ月前」、「1週間前」、「前日」、「当日朝」と何度も点検を!

3 体験施設やその周辺の整理・整頓をしておく

ケガや事故の防止だけでなく、火災等の災害発生時の避難の妨げにならないように整理整頓を心がけておく。



4 体験に必要な道具や施設は日頃からメンテナンスを

日頃から道具類、機器、施設・設備に関するチェックと定期的なメンテナンスを行い、危険箇所は直ちに改善・改修を行っておく。

5 悪天候を想定して、代替プログラムも考えておく

屋外での体験は、悪天候等により実施できないことを考慮して、屋内等ができる代替プログラムを事前に用意しておく。(荒天時は無理な屋外体験を実施しないようにするためにも代案の用意を)



6 受入前に夫婦・家庭内でもミーティングを。当日は児童と一緒に楽しむ

受入前に体験プログラムや食事、受入生徒の健康状態やアレルギー等について夫婦間・家族でもミーティングをする。(ペットについても対応を話合っておく)
教育旅行を受け入れるには多くの不安や緊張がつきまとうが、受入側が明るく楽しく活動しなければ児童も楽しめないので一緒にになって楽しむ。

時には叱ることも大切! 叱り方も考えておくこと。



7 地域の方たちにも一声かけて、協力をお願いしておく

地域や近隣の方へも児童達が来ることを伝え、受入会員同士とは、常に意思の疎通を図り、仲良く、小さなことでも相談できるよう心がける。

8 受入生徒を交えてオリエンテーションをする

児童が各家庭に着いたら、まずオリエンテーションを行う。
学校から提供された健康状態確認表の内容把握や他に不安や心配事がないかなどを確認。その時に顔色などもさりげなく観察しておく。



9 緊急連絡網の整備

万が一の際の連絡先を整理した一覧表は(巻末を参考)、お家の見やすい場所に掲示しておく。できれば、携行用のハンドブックを車にも搭載しておく。

10 救急車の要請と医療機関の受診

児童が傷病や体調不良など、突発的な加療や受診が必要になることがあるので、日頃からかかりつけの医療機関とも良好な関係を築いておく。
万一、事故や緊急事態が発生した場合はすぐに救急車の要請(119番)または医療機関へ連絡し、応急処置の指示を仰ぐとともに受診させること。

! 食品・衛生について!

農家・漁家の受入の場合は、児童と一緒に料理づくり体験をすることになります。受入家庭はケガや事故などと同様に、食品・衛生についても細心の注意と配慮が必要です。食中毒は適切な管理と注意により防げますので、今まで以上に食品衛生意識を向上させましょう。

ひとりの油断やミスで起こった食中毒は地域全体の信頼を無くしてしまいます

食中毒、O157、ノロウイルスの予防方法

台所に用意するもの

- エンボス手袋(お肉や魚をあつかう際に菌が付着しない配慮)
- アルコール消毒(スプレー式がおすすめ)



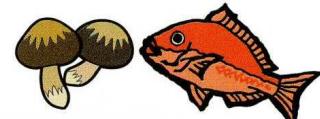
食物アレルギーが出る食品

- 表示義務5品目:卵、乳、小麦、そば、落花生(カレールーにも含まれる)
表示推奨20品目:あわび、いか、いくら、えび、オレンジ、かに、キウイ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン、バナナ



■ 食品の購入について

1. 生鮮食品は新鮮な物を購入する。表示のある食品は消費期限を確認し、魚介類やキノコ類の購入にあたっては、毒のあるものを避け、種類の不明な物は使わないこと。
2. 肉汁や魚など水分が漏れないようにビニールなどに分けて入れること。
3. 冷凍食品などは買い物の最後に購入し、直ちに持ち帰るようにすること。



■ 食品の保存について

1. 冷蔵・冷凍の必要のある食品は、持ち帰ったら直ぐに冷蔵庫や冷凍庫に入れること。
2. 冷蔵庫や冷凍庫での保存は概ね庫内の70%程度の量にしておくこと。
3. 冷蔵(冷凍)庫は定期的に清掃・消毒すること。
4. 肉・魚・卵などを取り扱う時は、取り扱う前後に必ず手洗いをすること。
(卵は洗ってから冷蔵庫へ入れること。)



■ 料理の下準備について

1. まず始めの手洗いは、手首からこすり合わせるようにすること。
2. 手指に傷や手荒れがあると、細菌がたくさん付着しているので、直接食品に触れないこと。又長い爪や指輪・時計と手指の間にも細菌が付着しているので、爪を短くし、調理前には指輪や時計を外すこと。
3. 魚介類・肉類・野菜類はそれぞれ専用の包丁・まな板を用意し、生の肉や魚を切った後には包丁やまな板を洗い、熱湯をかけた後に使用すること。
4. 冷凍食品の解凍は、室温では食中毒菌が増殖する場合があるので、冷蔵庫内や電子レンジで行うこと。

■ 調理について

1. 台所は常に整理・整頓し、清潔にすること。
2. 食品の中心まで熱が入るように加熱すること。**目安は中心温度が85°Cで1分以上加熱すること。**
3. 料理を中断するときは、冷蔵庫で保管すること。

■ 食事について

1. まず、始めに手洗いをすること。清潔な手、器具を使い、清潔な食器に盛りつけること。
2. 食器類・調理器具は洗浄・熱湯消毒を充分に行うこと。
3. 温かく食べる料理は常に温かく、冷やして食べる料理は常に冷やしておくこと。
4. 目安は**温かい料理は65°C以上、冷やして食べる料理は10°C以下**。
(例えば、O157細菌は室温でも15~20分で2倍に増える。)
5. 食品を調理した後はできるだけ早く食べること。料理の作り置きはしない。
6. 生水・生ものは提供しない。(井戸水は一旦沸騰させ、湯冷ましにしておくこと。)



■ 残った食品について

1. 残った食品は清潔な容器を使って保存すること。
2. 温かいうちに冷蔵庫には入れないこと。早く冷えるように小分けして保存すること。
3. 臭いや粘り気などちょっとでも怪しいと思った食品は廃棄すること。

応急処置用の救急医療セット例 (体験プログラム内容にそってセットしてください)

□パンソウコウ、防水のキズバンド
□とげぬき・毛抜き・ルーペ
□医療用はさみ
□ピンセット・針
□ゴム手袋
□包帯／三角巾／ガーゼ
□抗ヒスタミン副腎皮質ホルモン軟膏(ハチ刺され)

□キンカン、ムヒ
□消毒液／綿棒
□キズ軟膏
□ポイズンリムーバー
□マウスピース
(心肺蘇生用)
□うがい薬
□胃腸薬

□風邪薬
□鎮痛・解熱剤
□下痢止め
□使い切り目薬(1回分づつ)
□体温計
□湿布薬・サロンパスなど
□救急・救命ハンドブック

●地域の詳細地図・ルートマップ
●記録メモ用紙
●デジカメ
●筆記具
●油性マジック
●水のペットボトル

●タオル／ティッシュ
●ビニール袋
●使い捨てカイロ
●懐中電灯
●安全ピン
●笛
●レスキューシート

1 熱疲労(日射病、熱射病)

日射病と熱射病は顔色で見分ける。処置は異なるので要注意!

炎天下での農作業や海・川での体験は、つい夢中になり体温が上がり、フラフラになることがある。この様な場合は二つの異なる症状を見分けること。

日射病 息づかいが荒くなり、高血圧となり顔面が赤くなる。

熱射病 息づかいが弱く、冷や汗をかいて、血圧が下がるので顔色は土色から青色になる。

+ 処置



日射病 の場合

濡れタオルや水で脇、首のうしろ、足の付け根などを冷やす。
バインダーなどで簡易的にうちわを作り風を送り、とにかく体全体を冷やす。
意識があれば、水(冷水はダメ)やスポーツドリンクをたっぷり与える。



熱射病 の場合

体を冷やさないようにタオルや衣服をかけて安静にさせる。
足を心臓より高くする。
意識があれば弱食塩水(水1㍑に2グラム程度の塩)を作り、小量ずつ飲ませる。

2 貧血・めまい

女児の場合は生理が原因の場合もあるので、周囲に気配りを!

最近は起立したままの朝礼などでも、しばしば座り込む児童が増えている。体験活動中に話や説明が長くなる場合は、体操座りなどをさせること。

△ 症状 ●顔が青い。
●立っていてふらふらし始める。
●手足が冷たい。

+ 処置

- ①すぐに座らせる。
- ②衣服とベルトをゆるめる。寝かせることができない場合は頭を低くしてうすくまらせる。
- ③静かに寝かせて、膝の下にバッグなどを入れて足を高くさせる。
- ④寒気を防ぐために、服やシートをかけてあげる。

3 鼻血

頭をそらしたり、首の後ろを叩かない。
絶対にあおむけにしない。

日常と違う環境に置かれることにより、のぼせや緊張などで鼻血を出す児童がいる。

△ 症状 ●鼻から血がたれる。

+ 処置

- ①小鼻を強くつまむ。
- ②それでも止まらない場合は、鼻にティッシュなどを詰めて、再度小鼻をつまみ直す。
- ③出血がひどい時には、両目の間を濡らしたタオルなどで冷やし続ける。

4 目にゴミ／突き目

目をこすらせないことを事前に説明しておく。

上を向いての果樹のもぎ取り体験中に、ゴミや小さな虫が入ったりすることがよくある。事前に具体的な注意と予防を説明しておくこと。

△ 症状 ●突然目をこすりだしたり、うずくまつたりする。

+ 処置

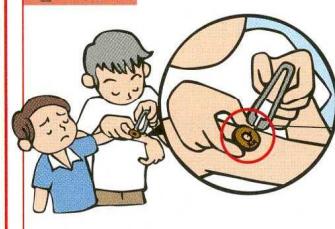
- ①目をこすらせないように声をかける。
- ②水を入れたコップなどを目にあて、上を向かせ、水中でまばたきを繰り返させる。
- ③ゴミが入った方の目を下にして、児童を横に寝かせ、顔の下にタオルをあてがい、水筒の水(きれいな水)を目にゆっくり流しながら、まばたきをさせる。

5 とげが刺さった

とげが見えにくい場合は、ルーペで拡大して抜く。

△ 症状 ●指先やつま先などにとげが刺さった場合は、動きが止まる。●痛みや不快感を訴えてくる。

+ 処置



一般的: 小さなとげの場合は、針を焼いて消毒し、消毒液を含ませたガーゼで拭き、針でとげを引き上げる。

5円玉利用:
患部に五円玉の穴の部分がくるようにし、五円玉を押さえると、とげが浮いてとげが抜けやすくなる。

抜き終えたら、患部を消毒し、半日程度キズバンを貼つておく(バンドエイド(キズパワーパッド)を使用する場合は消毒不要)。

6 切り傷

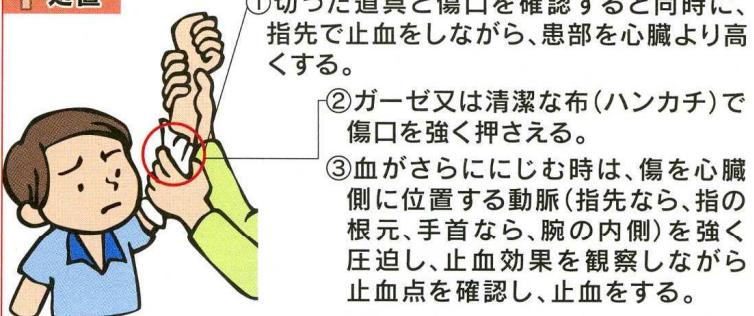
軽微な場合は、止血後、消毒をして、防水対応のキズパンなどで処置する。

小刀を使う竹細工体験、包丁を使う料理体験、稻刈りなど刃物による切り傷の可能性がある。

事前に使い方を具体的に指導しておくこと。

- !**症状** ●突然うずくまる。●出血している。
●患部を押さえている。●痛みを訴えるなど

+ 処置

**8 骨折／ねんざ**

最近の児童は骨が弱い場合があるので無理な跳躍や斜面地、かけ地などの体験はさせないこと。

- !**症状** ●ねんざと骨折の見分けは、明らかに折れが見えていればわかるが一般的には見分けがつきにくいので、痛みが治まらない場合は外科医でレントゲン確認をしてもらう。

+ 処置

**10 毒蛇咬まれ**

ヘビ咬まれた場合は、毒が体内に回るので、できるだけ歩かせないようにする。止血している場合は、20~30分で、止血帯を一度ゆるめること。

里山や農作業体験では、マムシや山カガシなどの毒蛇に咬まれてしまう事がある。体験させる現場を事前確認して、危険回避に努めること。咬まれた時は、蛇がそばにいればヘビの種類を確認。大半は咬んだ後に逃げることが多い。(マムシはその場にいる場合がある)

+ 処置



- ①咬まれた児童の周囲を確認するとともに、患部より心臓に近い場所をひもや三角巾でしばる。他の児童にも注意を呼びかけ、安全を確保する。(ヘビの種類確認と2次災害の防止)

- ②咬み跡(かまれた傷口)を見て、ヘビの毒性を簡易に見分ける。(上記イラスト参照)
③傷口にポイズンリムーバー(9に写真)を当てて、毒を吸引する。傷口を真水で洗い流す。
④救急車を手配して病院へ連れて行く。

7 やけど

軽度であれば、痛みがひいてからガーゼなどを当てて包帯をする。判断に迷ったら軟膏や薬などは一切塗らずに病院へ連れて行く。

- 水ぶくれはつぶさないこと。
アロエなどの素人療法は絶対にしないこと。

お食事づくり体験や野外でのキャンプファイヤー、花火などでやけどをする場合がある。
事前に使用方法を教えて、安全対策をしておくこと。

- !**症状** ●赤くなり、後で水ぶくれが発生てくる。

+ 処置

できるだけ早く冷やす。
痛みが取れるまで冷やす。
(約30~40分が目安)

**9 ハチ、毛虫、ムカデなど毒虫刺され**

毒虫刺された場合は、口で毒を吸い出してはいけない。

自然界には、様々な生物が共生しており、注意を呼びかけていても防ぐことが難しい場合もある。事前に触ることの危険性を呼びかけておくこと。

- !**症状** ●突然の痛み、ハレがくる。

+ 処置

●患部の状態と原因を確認するとともに、周囲の児童にも体験を中止させ、安全を確保する。



- ①刺した虫を確認できる場合は、刺さったとげや毒針をピンセット又は針で抜く。
②傷口にポイズンリムーバーを当てて、毒を吸引する。
③傷口を清潔な水や石鹼を使ってよく洗う。
●ハチの場合は抗ヒスタミン軟膏を塗り、患部を冷やす。

!**症状**

- 瞬間に痛みが走る。
●すぐ腫れてくる。
●ジンジンする痛みが連続するなど。



無 毒



有 毒



点線部分が歯の跡、黒丸部分から毒液が分泌される。